

2023年9月7日 一般質問（寺井分）持ち時間25分(4500文字)

9/4-3稿

【1回目登壇】

みなさんこんにちは。日本維新の会の寺井大地です。本市DXの推進について質問させていただきます。先輩・同僚議員の皆様におかれましては、しばらくの間御静聴を賜りますようよろしくお願い申し上げます。早速質問に移らせていただきます。

本市DXの推進について伺います。

昨年6月にUSB紛失事案が発生してから、約1年と少しが過ぎました。この間、尼崎市の情報セキュリティの脆弱さが露見した一方で、見直しも進み始め、7月には民間からデジタルのプロである、杉原デジタル政策監が登用されるなど、これからの尼崎市の情報管理・DX化の推進の機運が高まっていると感じていますし、楽しみにも思っております。

そう思うのも、やはり現在の尼崎市のDX化は、日本全国と比較してもやはり進んでいるとは言えないからです。

資料P1をご覧ください。

時事総合研究所の「全国自治体DX推進度ランキング2023」が発表されました。

本調査は、総務省が2023年4月に公表した「地方公共団体における行政情報化の推進状況調査（令和4年4月1日時点）」の結果をもとに、全国の団体で比較したものです。1. DXの推進体制等 2. 行政サービスの向上・高度化 3. 情報セキュリティ対策 4. デジタルデバイド対策 5. マイナンバーカードの交付状況 の5つの観点から比較されています。

トップ100位までランキングは発表されており、兵庫県では、8位西宮市、18位伊丹市、62位神戸市、そして75位姫路市がランクインしておりますが、本市は残念ながらランク外となっています。

こういったランク入りしている自治体をひとつひとつ調べると、共通しているのは市としての方向性・計画・戦略をしっかりと出していることが挙げられます。

資料P2からP5までをご覧ください。

西宮市は、「西宮市DX」の推進として推進指針を策定し、DX5原則・DXビジョン、そして推進体制などを整備しています。神戸市は、スマート自治体を実現するためのDXを中心に位置付け全庁横断的に改革を進めています。伊丹市においても同様に、令和元年6月

に「SmartItami 宣言」により、新庁舎整備を契機に伊丹市 DX 推進計画を策定し、取り組みを進めておられ、議会で視察に行かせていただいたことも記憶に新しいのではないのでしょうか。そして姫路市では、デジタル化の加速のため「姫路ライフ・デジタル戦略」を策定し目指すべき将来像を設定して取り組んでいます。

昨年度に総務委員会でデジタル化の先進事例を行政視察に行きましたが、そのどの自治体でもしっかりとデジタル化・DX 推進の戦略や計画を立てられていました。

尼崎市はどうでしょうか。資料 6 をご覧ください。

現在の尼崎市では、尼崎市官民データ活用推進計画や尼崎市行政手続等デジタル化推進計画など個別に作られています、「目指すべきビジョン」は一切示されておらず、国の方針を出したからそれに沿って作っただけの計画になってはいないのでしょうか。全庁的な DX 戦略や方向性を示した「尼崎市は、市民サービスを向上させるために、DX をこのように推進させます！」「こういった街を目指します！」と市民に胸を張ってお伝えできる、「尼崎市 DX 戦略」を策定すべきではないのでしょうか。

ぜひ市長、または杉原デジタル政策監から、本市の DX をどのように進めていくのかお考えをお聞きしたいと思います。

お伺いします。

Q1-1 デジタル化のプロである、杉原デジタル政策監からみた、本市における DX 推進の課題は何か。

Q1-2 私は、本市においても DX 推進の方向性を示す戦略や計画を打ち出して、全庁的に進めることが必要だと思うが、どのように考えられるか、ご所見をお伺いします。

次に、全庁的にデジタル戦略を打ち出した上で、ぜひ進めて頂きたい地域の課題の解決に向けて具体的に2点ご提案があり、質問をさせていただきます。

1つ目は、地域の情報についてです。資料9からご覧ください。

若手が集まる会などお話を聞いていると、子育てに関するイベントはないか、地域で活動したいがどこへ行けばいいか、今日はどこでどんなイベントをやっているのか、地域で開催されるイベントに参加したいが、情報を取得することが難しいという声もお聞きしております。尼崎市の公式 X(旧 Twitter)をはじめとした各種 SNS、市民活動の広場あまがさき、あまがさき観光局、各生涯学習プラザ、回覧板やコミュニティ連絡板など、情報発信元と発信方法がバラバラであり求める情報に辿りにくいものにもなっているのも要因になっています。

また、最も地域に近いコミュニティ連絡板には様々な地域情報や市政の情報のチラシが貼られています。地域の担当の方、多くは町内会長が綺麗に整理してくださっておりますが、町内会へ加入する人も減り、高齢化も相まってその維持が難しくなっている地域もある現状にあります。

こういった本市が抱える課題をクリアする1つの例として、神戸市や三田市が導入している「みんなの街の掲示板 ためマップ」をご提案します。P09をご覧ください。ためまっぷは、地域で出されている案内・チラシ等が集約され、自分の位置情報から「近くていきやすい」「今日行ける・明日行ける」イベントなどがわかりやすく表示されます。子育て情報を届けるため、地域資源が見える化するため、自治体にとってさまざまな要望に応えられ、「今日行ける」「明日行こう」「家から近いから行こう」などわかりやすいサービスになっています。

ここでお伺いします。

Q2-1 子育てや保育などの情報はもちろん、地域イベントや、町内会等の地域への周知の効率化のため、ためマップを研究していただき、切り替えていくことは、市民サービスに貢献することだと思うが、どのように考えられるか、ご所見をお伺いします。

次に、尼崎市には、令和2年より取り組みを始めた「地域情報共有サイト あましえあ」があります。あましえあは、ホームページを見ると、公営・民営を問わず地域の交流や集いの場・相談窓口、コミュニティ拠点施設、市民活動団体等の幅広い地域情報を掲載していくサイトであり、市民の活動や暮らしに役立つ地域情報を掲載していきますと書かれています。この文言を見ると、市民は「社会活動やイベント等が掲載されているのかな」とページを開く訳ではありますが、実際は資料11のように、イベント情報や、どこで誰がいつ何をしているのかといった内容は一切記載はありません。このあましえあは、第1義的に「地域資源情報」を社会福祉協議会等、様々な主体と共有するためにあるから、このことです。

ここで伺います。

Q2-2 市民がホームページを見た際に、地域活動やイベントの内容等がわかると思ってしまう・誤認識してしまうような表現を改めて頂く方が良いと思いますが、ご所見をお伺いします。

また、この事業は年間480万円の維持費がかかっており、市民サービスにどの程度貢献しているのか見えにくく、コストパフォーマンスを考えることも必要なのではないのでしょうか。

Q2-3 この「あましえあ」の公開ページについて、より拡充していく必要があると考えるが、現状の課題についてご所見をお伺いします。

Q2-4 また、年間480万円の決して安くはない維持費のかかるシステムだが、市民サービス向上に繋がっているのか、ご所見をお伺いします。

2つ目は、駐輪場のデジタル化についてです。

本市では、放置自転車対策が行政の皆様のご尽力のおかげでこの10年で大きく進み、事故・盗難・放置の件数が平成以降最小の件数となり、目に見えて駅前が綺麗になりました。そして今は、自転車マナー向上に向け取り組みを進められているところであり、先日。盛大なキックオフイベントも開催するなど勢いが感じられるところです。

一方で、こんな声をお聞きすることもあります。

「駐輪場の定期券を申し込んだんだけど、半年待ちって言われた。」

「定期申し込むのは面倒だから、近くの一時利用をいつも使っている」

「駐輪場代もICカードが使えたらいいのに」

などの声です。

実際調べてみると、駅によってばらつきはありますが、例えば阪神尼崎駅では定期を申し込むと、半年待ちと言われ、武庫之荘駅では280人待ちであったりし、民間駐輪場では5~6年待ちと伝え定期待ち自体を諦めさせるような表現で伝えられる職員もいたりする現状にあります。JR尼崎駅北側では、普通の自転車の定期は空いてはいますが、お母さんたちが乗る電動のチャイルドシート付きの自転車を置くことができる平場の置き場は60人待ちで半年~1年待ちといった現状にあたりもします。定期待ちされる方は、駅から離れた駐輪場を使用したり、一時利用で毎回現金精算するなど対応されているようです。

また、本市で駐輪場の定期券を申し込むには、駐輪場に足を運ばなければいけません。指定管理者によって対応は少し異なるようですが、氏名や住所などを記入し、自転車のサイズなども記入が必要なところがあります。そして、定期の順番が来次第、電話により連絡をもらう、いわゆるアナログな仕組みで運用されています。工作中などで電話が取れないこともありますし、月末の定期の更新を忘れてしまったり、定期の時期の精算が混み合うなどもよくお聞きするところです。

そういった不便を解消するため、今年8月から神戸市では、駐輪場のWEBサービスを始めました。実際神戸市にもお伺いしお聞きした担当の方のお話では、神戸市は全庁的に、DXを推進するという中、市長のトップダウンと市民からの要望に答える形で計画がスタートしたそうです。このシステムでは、市営の駐輪場が網羅され、費用はもちろん、定期待ちの状況などもわかりやすく表示されており、定期の申し込みがこのページから可能です。予約の順番が来たらメールで通知が来るため、電話が取れない等といったこともなく、定期待ち効率化がはかれます。また、定期の支払いや継続時の手続きもネット上で決済が

可能になっており、月末の定期継続時の支払い待ちなどをする必要がありませんし、その手続きにかかる人件費も削減することができ、サービスの運用維持費が賄えるといったお話も聞いております。

伊丹市では、ネット上での決済までは行かないものの、定期待ちの管理をデジタル化することで効率的な案内をされています。どちらの自治体も、やはり DX 推進ランキングに入っている自治体です。

放置自転車の取り組みが大きく成果を出したからこそ、次のステップとしてデジタル化を通じて DX を推進し、「駅前をスマートに」市民サービスを向上させるためにも、自転車を使う環境の整備を進め利便性向上にも努めていただきたいと思います。

お伺いします。

Q3-1 まずは、駐輪場における支払いのキャッシュレス化を進めていくお考えはないでしょうか。

Q3-2 定期券手続きの WEB 化をはじめとした、デジタルを活用した効率的な運用を目指し、その研究を進めていただきたいと思いますと思うがどうか。

なお、通告しておりました、起業・創業サポートについては、文字数的に厳しく、今回は質問は致しません。

以上ご答弁よろしくお願いたします。

【2 回目登壇】

→要望を述べて終わる。